

科目名	倫理学	学年	2 年 51 期生
担当者		期 別	1年後期～2年前期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2 時間× 15 回	専任・兼任	兼任
実務経験	ユネスコ「生命倫理必携」より抜粋翻訳など		

一般目標(GIO)

患者の自己決定権を尊重し、チーム医療の進展に対応できる歯科衛生士になることを目指します。そのため、「ヒポクラテスの誓い」以来、医療従事者に求められてきた様々な「心構え」を概観し、たとえ医療従事者にとって不本意な結果となる懸念があっても、患者が明晰な思考の結論として望むことであれば尊重すべき、というジレンマを意識化します。その上で患者への具体的説明に必要とされる技術的要件を学び、歯科医療現場で実践・活用できるレベルまで体得を目指します。なお、専門的用語を、遺漏・誤解がなく正確に理解することも、本科目の目標とします。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	16	1	1章 なぜ医療倫理を学ぶのか①	技術系専門職が医療倫理を学ぶ目的がわかる。
2		16	2	1章 なぜ医療倫理を学ぶのか②	倫理とはなにか、自分の言葉で説明できる。
3		23	2	2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス①	悲惨な事件の反省に立って医療倫理学が発展してきた歴史がわかる。
4		30	2	2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス②	パターナリズムと自己決定権偏重のそれぞれの功罪がわかる。
5	11	6	2	2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス③	患者にとって最善の医療サービス提供のあり方を説明できる。
6		13	2	3章 インフォームド・コンセント①	インフォームドコンセントの必要性を説明できる。
7		20	2	3章 インフォームド・コンセント②	インフォームドコンセントの考え方に立つ患者対応が可能になる。
8		27	2	3章 インフォームド・コンセント③	ノンコンプライアンス行動をとる患者への対応方策を理解する。
9	H31.1	22	2	4章 研究と医療倫理	臨床研究が「人体実験」でないための条件がわかる。
10	2	12	2	付章 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	患者のパーソナリティを理解し、それに応じた対応がとれるようになる。
11		19	2	付1 その他歯科医療従事者に必要とされること	歯科医療ないし医療従事者に求められる倫理コードが説明できる。
12	4	23	2	付2 医療倫理に関連する規範と法令	難解な綱領や法令を読み解けるようになる。
13	5	7	2	ケース1-8のディスカッションと解説	事例研究を通じ臨床現場での実践応用力を身につける。
14		21	2	ケース9-16のディスカッションと解説	事例研究を通じ臨床現場での実践応用力を身につける。
15	6	11	2	総括	歯科衛生士を目指すうえでの心構えを改めて見直す。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験		50%	医歯薬出版 歯科医療倫理 第2版	
平常点		%		
レポート		50%		
		%		

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(13:00～14:30)

4限目(14:40～16:10)